

# 校内研だより



令和4年5月27日(金)  
研究推進部  
No.6

## 1 研究授業を終えて

(1) 本時 <国土の学習を産業の学習につなぐ1時間!>

○前時までの学習から見通しをもつ



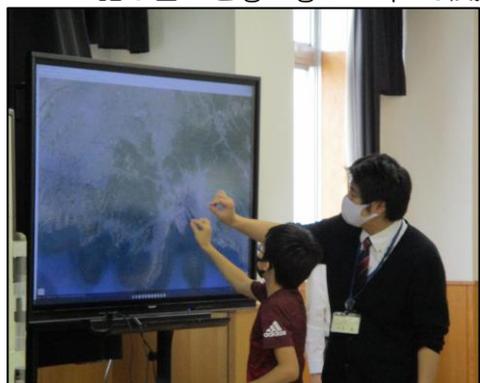
前時までの学習から、「他の地域は？」につなげて学習スタート。1枚約3000円の立体地図も効果抜群。というより、そっちに引っ張られすぎた感じもありました。雨温図はちょっと難しかったです

○出てこなそうな視点をフォローする

話し合いを共有して、出にくいであろう部分を google earth で見る。産業以外の「防災」の視点も追加され、さらに充実した話し合いになっていきました。ただ、ファシリテーターありきの話し合いでしたので、班によってはなかなか深まらないところも。もう少し、意図的な班編成も検討すべきですね。



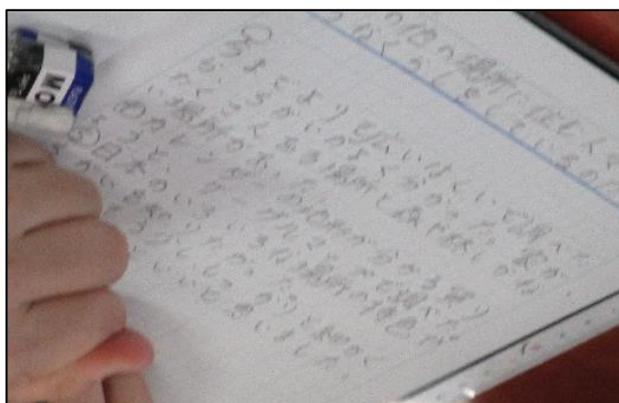
○話し合いを google map で根拠付けていく



視点に加えて google map を追加。フワッとした話し合いから、実際の写真を見ることで、具体になっていきます。台数も1台にしたことにより、同じものを見て話し合うことができていました。ICT 機器は手段です。目的を大切に、使い方を考えていきたいところです。

○楽しみなことを共有して、いざ産業学習へ!

何が、これから楽しみか、みんなで共有して振り返り。自分の視点が広がっていくことを実感してほしいと思いました。農業や漁業について、それ程関心が高くないという実態を把握できましたので、そこをどうしていくか、考えながら入っていきたいと思います。

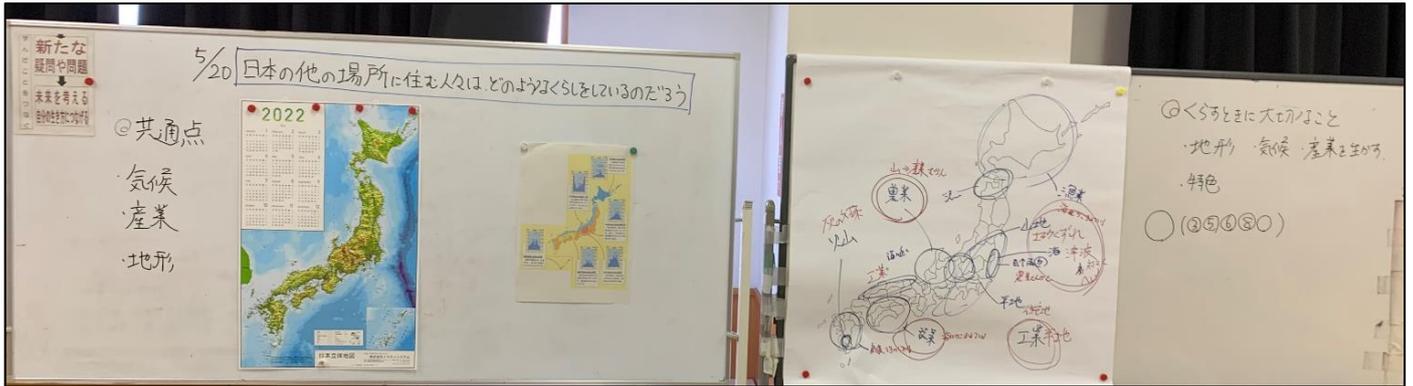


## ○研究協議会



先生方もよく話し合っ  
て、学び合いました。指  
導案も細かな理論もち  
ろん大事ですが、それ  
と同じくらい「子供が  
生き生きしているか。」  
も大切にしていきたい  
ところです。詳しくは、  
記録を参照してくださ  
い。

## ○板書



## (2) その他

### ○データ

- ・授業記録、研究協議会記録はクラスルームで配信しています。今後の参考にしてください。

### ○講師の櫻井先生から

- ☆子供のワクワクを大切に！
- ☆子供に「委ねられる」授業を！
- ☆最後の問いは果たして必要だったのか？



### ○授業者から

5月の慌ただしい中でしたが、参観していただきありがとうございました。当初は、普通に「調べる」段階でいいかなと思っていたのですが、地区委員会とセットになるので、このような形にさせていただきました。都小社研で開発したものが、一部の教員だけでなく、広く汎用性のあるものだとことを示したかったこともあります。子供たちは、個々に多くの課題を抱えています。昨年度までの先生方の指導や想いを積み重ねながら、一らしい高学年になれるように、今後も学年で力を合わせて指導を続けていきます。

次回から、各学年の研究授業が始まります。少しずつ、外部からの人も入ってきますが、これまで一小が大事にしてきたことは、変えずに進めていきましょう。**我々の強みは、前のめりに学ぼうとする子供と教職員集団です。**各学年に都小社研の世話人が付きますが、基本的には笠原を通してほしいとお願いしています。ちょっとでも「？」と思ったら言ってください。任せてください。なるべく平和的に解決します。

## 2 全小社研東京大会関係

### ○会場校学年世話人

- 3年部会…大野拓哉（武蔵村山市立第九小学校）
- 4年部会…大口高史（中野区立中野本郷小学校）
- 5年部会…寺本大一（文京区立昭和小学校）
- 6年部会…高橋宏和（足立区立西伊興小学校）

### ○会場校研究主任

- 新宿区立四谷小学校（第一会場）…杉本季穂
- 小金井市立小金井第一小学校（第二会場）…笠原駿
- 中央区立日本橋小学校（第三会場）…山田千尋
- 世田谷区立代沢小学校（第四会場）…横田富信

☆少しずつ動き始めています。会場校世話人は、今年度の校内研の授業検討に参加することがあります。本校の良さを生かせるように、子供が生き生きとするような実践をつくれるようお願いしました。繋がりを広げながらやっていきましょう。

☆それぞれの会場校の研究主任とも風通しよく、お互いの情報を共有しながら進めていきます。本校の資料を渡したり、他校の資料をもらったりしていきます。楽しい授業に答えはありませんので、広く考えていきましょう。

## 4 すきかつ（時間外 OJT）

### ○メニュー

- つかむ段階
- 調べる段階
- まとめる段階
- いかす段階
- 各学年の内容
- 学習問題の作り方
- 資料の読み取り
- 意見の繋ぎ方
- 相互指名
- 図解
- ノート
- ふりかえり
- 評価の考え方
- 作品作り（校長）
- 明日の授業
- 小ネタ
- 
- 学びを委ねる
- ファシリテーターとしての教員の立ち位置
- 

☆第1回を近々開催します。16：45 から1時間程度を予定しています。内容は、社会科授業の流れ（説明）と学習問題づくり（演習）を予定しています。その次については、その場で内容と日時を決めたいと思うので、各学年で話題にしてください。

## 5 その他

☆振り返りについて学年で話してみてください。

☆ペーパーレス活動にご協力をお願いします。

- ☆6月 2日(木) 校内研究会 **研究だより⑤**
- 指導案検討（6年生）
- 指導案の書き方（見方・考え方）
- well-being

☆ 16日(木) 研究授業（6年1組） **研究だより⑥**

☆ 20日(月) 校内研指導案検討（梅の実）

## 6 指導案

### 第5学年 社会科学習指導案

大会指導案要旨様式

小金井第一小

#### 1 小单元名 「あたたかい土地の暮らし」(全7時間)

#### 2 小单元の目標

我が国の国土の様子と国民生活について、気候などに着目して地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、表現することを通して、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

#### 3 小单元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 気候などについて、地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、自然条件からみて特色ある地域の人々の生活を理解している。 ② 調べたことを白地図や文にまとめ、人々は自然環境に適応して生活していることを理解している。	① 気候などに着目して、問いを見出し、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について考え、表現している。 ② 特色ある地域の自然条件と人々の生活や産業を関連付け、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、適切に表現している。	① 我が国の国土の様子と国民生活について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 学習してきたことを基に、日本各地の暮らしの様子を予想し、他地域への興味・関心を高めようとしている。

#### 4 本小单元で目指す「社会とつながり未来を創る子供」の姿

「つなぐ」段階では、国土単元と食糧生産以降の単元を繋ぐ1時間単元として、学習した地形に特色がある地域の学習と気候に特色がある地域の学習において、「学習した地域の特色を生かして生活している。」ことを知識として獲得している。気候条件の特色を生かして生活している。この実践のゴールの姿。気候条件や気候条件に着目しながら、改めて日本の様々な地域について日本の地形図、雨量図を活用して見直ししていく活動を行う。「同じあたたかい地域でも、山地と平地では盛んな産業は違うのかな。」「低い土地だと平野が広がっているから、農業が盛んではないか。」といった予想を話し合う、対話的な活動を通して、これから学習する産業学習についての興味や関心を高めるとともに、地形条件や気候条件に着目した見方や考え方を働かせられる子供の育成を目指す。

#### 5 教材について

子供が「自然環境に適応して生活している」という中心概念を獲得するために、本小单元では気候条件から見て特色のある地域を扱う。産業や観光が盛んな沖縄県を取り上げる。我が国の気候の特色である桜前線や海開きなどは、子供の驚きを引き出しやすく、独自の文化は観光に生かされ、多くの人に親しまれている。気候に合わせて生活していることやパイナップルづくりに気付けたい。地図や図帳やICT機器、現地の写真資料等を活用して理解できるようにする。

また、「つなぐ」段階では、立体地形図を活用して見直ししていく活動を行う。凹凸を触りながら地形条件や気候条件に着目した見方や考え方を働かせられる子供を育てたい。

#### 6 都小社研の研究内容との関連

##### (1) 主体的に問いを追究する工夫

本小单元では、学習問題を解決した後、「つなぐ」段階では、気候に合わせて生活しているという中心概念を獲得した後、導入時から共通点を整理する。そこで、どちらも自然環境に適応して生活しているという概念を獲得する。その際に出ると予想される「他の地域はどうなのだろう。」という、子供たちの思考に合わせた問いから、日本全体に視野を広げ、考えさせる活動を行う。最後に、「産業と自然環境は関係しているのだろう。」と問いかけることで、その後の産業学習においても、自然環境との関わりを意識できるようにする。また、前小单元の視点を活用するために、子供が教科書、図書資料、タブレットを活用したインターネット資料など、資料を選択して調べられるような工夫をする。さらに、「調べる」段

全体的な教材について

①問い  
②(見方・考え方が働く)  
学習活動  
③評価  
の3本です。

学習問題や問いについて

階における学習展開を工夫することで、個人で調べたり、子供同士で情報を共有したりできるようにする。

### (2) 社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫

前小単元で、高い土地に住む人々の暮らしを学習している。年生で学んだ自然環境を保護・活用している小笠原の学習を想しをしているのだろう。」という問いをもたせる。予想、学習計

**見方・考え方が働く場面の  
学習活動について**

の学習や、4  
てどことなく  
ながら考えさ

せ、学んだ視点を生かして、本小単元でも問いを設定して調べる計画を立てることで、時短を図るようになる。前小単元で調べた「生活」「産業」「伝統、イベント」の3つの視点を生かして、調べ学習を行う。視点を活用することにより、「高い土地と同じように～」や「あたたかい土地と比べて～」といった、異なる地域を比較する見方・考え方を働かせた記述が出てくることを想定している。

調べるツールは、Xチャートにそれぞれの調べを溜めていく。「まとめる」段階で、それらを総合して考え、学習問題を解決する。思考ツールを活用することにより、それぞれの時間でまとめたことが一目で分かるようになり、共通点が考えやすくなる。Xチャートの活用は、子供の思考を整理する上で有効な手段となると考える。

「つなぐ」段階では、地形や気候の学習を生かすために、立体地形図と雨温図を活用する。このことにより、これまで、働かせてきた社会的事象の見方・考え方を、さらに効果的に働かせ、これからの産業学習などに繋がるようにする。

### (3) 子供の学びを確かにする評価の工夫

**振り返りなど**

「調べる」段階では、Xチャートを活用する。その人がどのように理解をしているのかを見取っていく。また、子供自身も自分の学びを一目で振り返られるので、調べる内容の関連を考えたり、調べ直ししたりすることができる。

毎時間の振り返りについては、「ふりかえりの問い」をカードにして活用する。その際には、感想ではなく、次の自分の学びにつながる振り返りが書けるように指導する。全ての問いについて毎時間振り返るのではなく、毎時間の学習活動や評価に合わせて、通しをもつことができ、自分の考えの振り返りを自覚できると考えた。

**この実践のウリ  
(見方・考え方を押さえたアピール  
になるといいなと思っています。)**

## 7 本実践の教材のウリ

**高低差が分かる  
子供が触りたくなる  
抜群の触り心地！**

**地図帳やICT機  
器にはない  
大判の迫力！**

**既習の地域と  
一目で比べられる！**

**1枚 3000円！  
(程度)**



**グループで同じ  
ものを見ながら  
話し合える！**

**雨温図と合わせ  
ることで地域と  
自然条件を捉え  
られる！**

**この後の産業学  
習でも地形の把  
握で使える！**

**何と、理科でも使える！**



9 小単元の指導計画（全7時間）

過程	ねらい	主な学習活動（○） 評価につながる学習活動（●） 問い、本時の課題（◆） 予想される子供の反応（・）	◎資料 【評価】 □指導上の留意点
つ か む	沖縄県の気候の特色を理解し、学習問題を設定し、学習計画を立てる。①	○シュノーケル教室の写真を読み取る。 ・学校の授業で何を学んでいるんだ。 <b>◆沖縄県</b> ○気温と湿度 ・東京に比べて低い。 ○航空写真 ・話し合う。 ・高い建物が少ない。 ○家の工夫について調べる。 ・台風に備えているのかな。 <b>◆どのような生活をしているのだろう。</b> ●前小単元の学習を振り返り、学習問題を設定する。 ・孺恋村とどのように違うのか。 ・温かい気候を産業にどう生かしているのだろう。	◎シュノーケル教室の写真 ◎沖縄の気温と降水量の推移 ◎沖縄のまちの写真 ◎伝統的な家のづくり □既習の地域や自分たちの地域と比べる。 【思判表①】発言・ノートなどの記述から「気候に着目して、問いを見出し、問いを解決して考える。」 <b>評価に直結する活動のみでいいです。</b>
<b>沖縄の人々は、あたたかい気候などをどのように生かしてくらしているのだろう。</b>			
		○予想を話し合い、何を調べたらよいかを考え、学習計画を立てる。 ・孺恋村でもその土地にあった産業をしていたから、盛んな産業があると思う。 ・孺恋村では、高い土地の涼しい気候を生かして、イベントを開いていたから、沖縄でも、あたたかさを生かして何かしていると思う。 <b>学習計画</b> ①くらしの工夫 ②産業（農業、漁業、観光業） ③伝統（歴史） ●学習の見通しを考え、ノートに記入する。 ・それぞれの共通点を見付けやすそうだから、Xチャートを使ってみよう。	□既習の学習と関連付けて学習計画を立てる。 □最初の問いは共通にして、モデル学習を行う。 【態度①】ノートなどの記述から「沖縄県の様子とそこに住む人々について、既習事項と関連付けて予想したり、学習計画を立てたりしているか」を評価する。
調 べ る	沖縄県の人々は、あたたかい気候を生かし、農業や漁業を行っていることを理解する。②	<b>◆どのような農業や漁業がさかんなのだろう。</b> ○資料を使って調べ、事実を整理する。 ・サトウキビやパイナップルを作っている。 ・カツオやマグロがよくとれる。 ○整理した事実を、学級内で共有する。 <b>◆どうしてこのような産業がさかんなのだろう。</b> ○調べた事実を基に話し合う。 ・あたたかい気候を生かすことができるから。 ・周りを海に囲まれた島だから。 ●次時以降の学習計画を立て、振り返りを書く。 ・同じ産業の観光業を先に調べれば伝統が分かっつきそうなので次は観光を調べよう。	◎教科書、資料集 ◎自分で持ってきた資料 ◎動画（Googleclassroomで配信） □学習過程を学級内で確認しながら進める。 □資料の選択方法について確認する。 □共有する時間を生かして、自分が分からなかった部分を解決するようにする。 【知技①】発言やノートなどの記述から「必要な情報を読み取り、沖縄県では、あたたかい気候を農業や漁業に生かしていることについて理解しているか」を評価する。
	沖縄県の人々は、あたたかい気候を生かして観光業を営んでいることを理解する。③	<b>◆どのような観光業がさかんなのだろう。</b> ○資料を使って調べ、事実を整理する。 ・海でのレジャーを楽しむことができる。 ・スポーツのキャンプ地を見ることができる。 ○整理した事実を、学級内で共有する。 <b>◆どうしてこのような産業がさかんなのだろう。</b> ○調べた事実を基に話し合う。 ・早い時期から海に入れたり、運動したりしやすい気候だから。 ●次時以降の学習計画を確認し、振り返りを書く。 ・調べてきた産業と伝統はつながりがありそうなの	◎（前時と同じ） □導入時に自分と同じ内容を調べる子供を確認させる。 □教員は、個別の指導を主に行う。 Aの子供→意味を問う、次の見通しをもたせるようにする。 Bの子供→自分が調べている内容や方法以外について、声掛けを行う。 Cの子供→問いにあった資料、部分を伝える。 【知技①】発言やノートなどの記述から「必要な情報を読み取り、沖縄県では、あたたかい気候を観光業に生

		で注目しながら調べていくようにする。	かしていることについて理解しているか」を評価する。
沖縄県の人々の伝統的な文化や、自然を保存・継承している人々について理解する。④⑤	<p>◆どのような伝統や文化があるのだろう。</p> <p>○資料を使って調べ、事実を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄の料理は、昔からの伝統がかかっていた。</li> <li>・自分たちの文化に誇りをもっている。</li> </ul> <p>○整理した事実を、学級内で共有する。</p> <p>○調べ足りない問いを調べる。</p> <p>○沖縄の現状を振り返り、問いを見出す。</p> <p>◆これからも沖縄県は、観光に力を入れていった方がよいのだろうか。</p> <p>○調べた事実を基に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光が産業の中心なので、力を入れていくしかない。</li> <li>・自然環境を守らないと、将来、観光客も来なくなってしまう。</li> </ul> <p>●学習過程を整理し、振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統を最後に調べたことで、沖縄のこれからのについても考えやすかった。</li> </ul>	<p>◎（前時と同じ）</p> <p>□（前時と同じ）</p> <p>【知技①】発言やノートなどの記述から「必要な情報を読み取り、沖縄県では、伝統や文化を大切にしていることについて理解しているか」を評価する。</p> <p>□問い直すことで学習過程を振り返り、自分で調べ直す時間をつくる。</p> <p>□これまで調べたことを基に、話し合いをさせるようにする。</p> <p>【思判表②】まとめの文章の内容から「あたたかい土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考え、適切に表現しているか」を評価する。</p>	
学習したことを整理し、学習問題に対する自分の考えをまとめる。⑥	<p>◆調べたことから、どのようなことが分かるのだろう。</p> <p>●Xチャートやノートから、共通点や繋がりがあることについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あたたかい気候を生かしている。</li> <li>・伝統と観光業は繋がりがある。</li> </ul> <p>●学習問題に対する自分の考えを表現する。</p>	<p>◎調べる時間に作成したYチャート</p> <p>□既習の学習や調べてきたことを比較するよう促す。</p> <p>【思判表②】まとめの文章の内容から「あたたかい土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考え、適切に表現しているか」を評価する。</p> <p>【知技②】まとめの文章の内容から「沖縄県に住む人々は、自然環境に適応したり生かしたりしながら生活していることを理解しているか」を評価する。</p>	
まとめる	<p>沖縄県の人々は、あたたかい気候にあった農業や、伝統や気候や地形を生かした観光業を行うなど、台風に対する備えをするだけでなく、気候の特色を生かしたくらしをしている。私たちが住んでいるところや、他の地域も生かしていることがあるのかなと思った。</p>		
学習してきたことを基に、自然環境と国民生活のつながりを考え、次単元への興味・関心を高める。⑦ <本時>	<p>○学習してきたことを振り返り、高い土地とあたたかい土地の暮らしの共通点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高い土地で暮らす人々もあたたかい土地で暮らす人々も、地形や気候などを生かした生活をしている。</li> </ul> <p>○日本の白地図上に姶良村や沖縄県の位置を示し、自然環境と国民生活のつながりを考える。</p> <p>◆他の地域に住む人々は、どのように暮らしているのだろう。</p> <p>○地図や雨温図を用いて、日本各地の産業の様子を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広い平地を生かして、東北地方でも農業がさかんだと思う。</li> <li>・海沿いでは、漁業が盛んなのではないかな。</li> </ul> <p>●振り返りを行う。</p>	<p>◎ノート</p> <p>◎日本地図 ◎雨温図</p> <p>□小単元全体を通した自分の学び方についても、振り返るように促す。</p> <p>【態度②】発言やノートなどの記述から「学習してきたことを基に、日本各地のくらしの様子を予想し、次単元への興味・関心の高まりが見られたか」を評価する。</p>	
つなぐ			

## 10 本時の学習 (7/7時)

### (1) 本時のねらい

学習してきた国土の地形や気候の概要を基に、自然環境と関心を高める。

### (2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・ 子供の予想される反応	
つかむ	<p>○前時までの学習を振り返り、2つの事例地の共通点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 嬬恋村に住む人々は、高い土地のすずしい気候を生かしている。</li> <li>・ 沖縄に住む人々は、あたたかさを生かした観光業を行っている。</li> <li>・ 寒い土地で暮らす人々も低い土地で暮らす人々も、地形や気候に合わせて、地形や気候を生かしたりしながら生活をしている。</li> </ul> <p>○問いを見出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     本時の問い：他の地域に住む人々は、どのように暮らしているのだろう。                 </div>	<p>□地形や気候の概要を振り返り、白地図上に嬬恋村と沖縄県の位置を示し、「高い土地」と「あたたかい土地」で学習してきたことを比較させ、共通点に着目させる。</p>
	<p>○問いに対する予想を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道は、広い土地を生かした産業をしていると思う。</li> </ul>	<p>□一つの事例地を例として確認し、グループ活動に入りやすくする。</p>
つなげる	<p>○立体地形図と雨温図を用いて、日本各地の生活や産業の様子について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本海側は雪が多いから、北海道と同じで雪を生かした観光が盛んだと思う。</li> <li>・ 山地が多いということは、木も多いはずだから木を生かした産業をしているかもしれない。</li> <li>・ 日本の中央に火山が多いから、何か対策をしているかもしれない。</li> </ul> <p>○話し合いを共有する。</p> <p>○共有したことを基に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京湾の周りに工場が多かったから、工業が盛んかもしれない。</li> </ul> <p>○話し合ったことを共有する。</p>	<p>□既習事項を基に予想を立てるよう促したり、予想するためにどのような資料が必要かを確認したりする。</p> <p>◎立体地形図 ◎雨温図</p> <p>◎白地図</p> <p>□資料の読み取りにならないようにする。</p> <p>◎Google Earth</p> <p>□Google Earthは必要に応じて使わせる。予想に出てきていない地域を拡大したり、話題になった地域の航空写真の様子を見たりして、自然環境と関わりがないかを予想させる。</p>
	<p>○今後の学習の見通しをもつ。</p> <p>振り返りの問い</p> <p>【③考えたこと ⑤どうしたかったか ⑧そもそもどういうことか】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto;"> <p>立体地図や雨温図を見て、日本の様々な地域の様子を予想してみて、緑の多いところは農業が盛んで、少ないところは工業が盛んなのではないかと考えた。自然環境を生かして生活しているのは、日本のどの場所でも同じだと思う。これから始まる、農業や工業の学習でも、その土地の地形や気候に注目して調べていきたい。</p> </div>	<p>【態度②】発言やノートなどの記述から「学習してきたことを基に、日本各地のくらしの様子を予想し、他の地域への興味・関心の高まりが見られたか」を評価する。</p>
まとめる	<p>○今後の学習の見通しをもつ。</p> <p>振り返りの問い</p> <p>【③考えたこと ⑤どうしたかったか ⑧そもそもどういうことか】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto;"> <p>立体地図や雨温図を見て、日本の様々な地域の様子を予想してみて、緑の多いところは農業が盛んで、少ないところは工業が盛んなのではないかと考えた。自然環境を生かして生活しているのは、日本のどの場所でも同じだと思う。これから始まる、農業や工業の学習でも、その土地の地形や気候に注目して調べていきたい。</p> </div>	

**とりあえず昨年度と同じです。**  
**※櫻井先生からご指導のあった「多様な子供の姿」をどう表現していくか考えていきましょう。**

### (3) 本時の板書計画

他の地域に住む人々は、どのように暮らしているのだろう。

共通点	地形図	雨温図	白地図	○
気候や地形を生かしている。				

月日(曜日)	内容	目安
	指導案作成開始	1か月以上前
	授業検討(部会)	3週間前
	授業検討(全体)	2週間前(設定済み)
	主任、校長確認	9日前
	指導案送付	7日前
	前日確認	1日前
	研究授業	当日

※記入後、週案に書き込んでください!

社会科における「見方・考え方」について

★すごく簡単に言うと… (笠原談) ★

◎社会的事象の見方・考え方

- その1 空間的な視点「小金井市と桧原村を比べると…」
- その2 時間的な視点「明治時代からどう変わったか…」
- その3 相互関係的な視点「組み立て工場の人と関連工場  
の人は…」
- (その4 比較・関連・総合させる)

◎少し具体的に…

- 先生にとっては…
  - ☆調べさせる内容 (指導要領の「〇〇に着目し、」)
  - ☆教材を選ぶ時の視点
  - ☆学習活動を決定するときの視点

- 子供にとっては…
  - ☆学びが深くなる視点
  - ☆別の学習をした時に気にする視点
  - ☆自分の人生の中で出会った事象を深く感じるための  
視点

大先生の著書でもう少し見ていき  
ましょう！

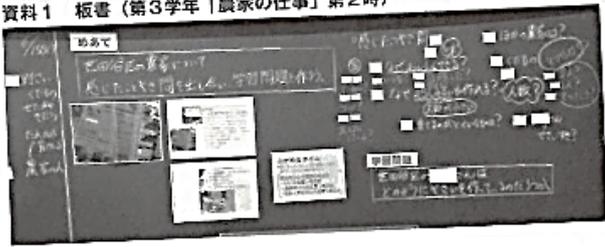
子ども自らが学習に価値を見いだす  
社会科授業づくりの教科書

**社会科が  
得意な先生・  
子どもも、  
苦手な先生・  
子どもも、  
授業が** 横田富信  
Tomimabu Yokota  
**おもしろくて  
たまたらなくなる本**

東洋館出版社

思う存分「見方・考え方」を働かせよう！ 子どもらしい解釈を楽しもう！  
これまでに学んだこと(既習)を活用して、  
新しいこと(知識)を獲得(概念化)できれば、  
子どもたちの学び方は、劇的に変わる！

資料1 板書 (第3学年「農家の仕事」第2時)



1 社会的事象を多面的・多角的にとらえられるようになる  
資料1は、第3学年の単元「農家の仕事」第2時に学習問題  
づくりを行ったときの板書です。それに際して次の4つの資料  
を提示しました。

- ①学校の近所にある畑の航空写真
- ②その農家さんがつくっている野菜の種類
- ③それを買っているお客さんの感想
- ④その農家さんがつくっている野菜の実物

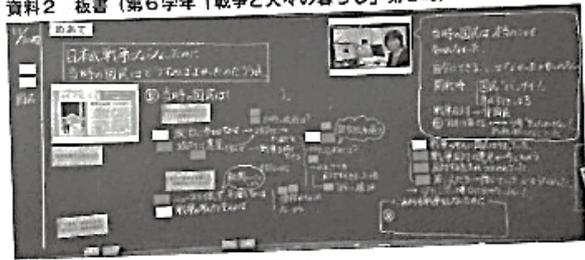
子どもたちは資料を見て、農家の様子について驚きを感じな  
がら、次のような疑問を出しました。こうした疑問一つとっても、  
子どもは自らの社会的事象の見方・考え方を働かせているとと  
らえることができます。

「どうして野菜をおいしくできるとらえらう」

順を追って説明していきましょう。

- 1 社会的事象を多面的・多角的にとらえられるようになる
  - 2 判断力が向上する
  - 3 価値を見いだせるようになる
- この文言を自分自身の実践に引き寄せると、次の教育効果を期待できるのではないかと考えるようになりました。
- 各教科等を学ぶ本質的な意義の核心をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものである。
- 「見方・考え方」について「解説」(4頁)は、次のように説明しています。

社会的事象の「見方・考え方」を働かせるとはどういうことか



2 判断力が向上する

資料2は、第6学年の単元「戦争と人々の暮らし」の第8時の板書です。本時の問いは「当時の国民はどうすればよかったのだろうか」で、授業の前半部分で子どもたちは次のように述べています。

- ↓ 農家の取組とお客の思いをつなげながら、野菜づくりの工夫について問いを見いだしている点で、「相互関係的な視点」を働かせている。
- 「畑は小さいのに、なぜ25種類もつくれるんだらう」
- ↓ 航空写真から読みとったことと、農家さんがたくさん種類の種類をつくっていること、それから自分たちが(生活科などで)植物を育てた経験とを関連づけながら、問いを見いだしている点で、「相互関係的な視点」に加え、「空間的な視点」を併せて働かせている。
- 「(世田谷区内で)ほかの農家さんはどうしているんだらう」
- ↓ 「空間的な視点」や「相互関係的な視点」を働かせているとともに、「一つ前の単元」[区の様子]で農地の分布を学習したことを引き合いに出している(既習活用)。
- 「世田谷区内には、ここ以外にも農家はある。他の農家も同じなのかな」
- ↓ 「空間的な視点」や「相互関係的な視点」を働かせている。

「戦争を進めようとしている政府に『反対』を伝えればよかった」

「情報を基に日本はどうなっているのか判断すればよかった」

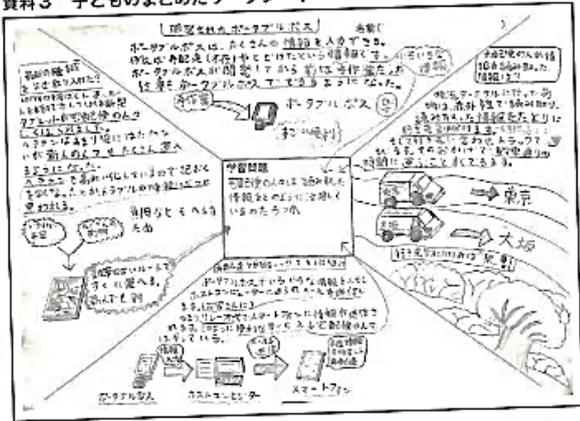
この段階では、「見方・考え方」を働かせようとはしていません。この段階では、「見方・考え方」を働かせようとはしていません。この段階では、「見方・考え方」を働かせようとはしていません。

「情報を基に日本はどうなっているのか判断すればよかった」

この段階では、「見方・考え方」を働かせようとはしていません。この段階では、「見方・考え方」を働かせようとはしていません。この段階では、「見方・考え方」を働かせようとはしていません。

「情報を基に日本はどうなっているのか判断すればよかった」

この段階では、「見方・考え方」を働かせようとはしていません。この段階では、「見方・考え方」を働かせようとはしていません。この段階では、「見方・考え方」を働かせようとはしていません。



「みんな、国民が意見を言えばよかったとか言っているんですけど、当時は国家総動員法があったから、そんなことをしたら、捕まってしまうと思うんだけど…」

この発言は、「相互関係的な視点」に加えて、「時間的な視点」を働かせた結果、生まれたものであることを読み取れます。このAさんの発言によって、「いまのわたしたちとは違うんだ」という意識が生まれ、当時の法や政治の進め方、メディアと国民とのかわりに着目しながら考えを再構築する姿が見られるようになりました。

授業の終末、「これからも戦争をしないためには、どのようなことが大切かを考えてまとめよう」と促したところ、Bくんは次のようにまとめていました。

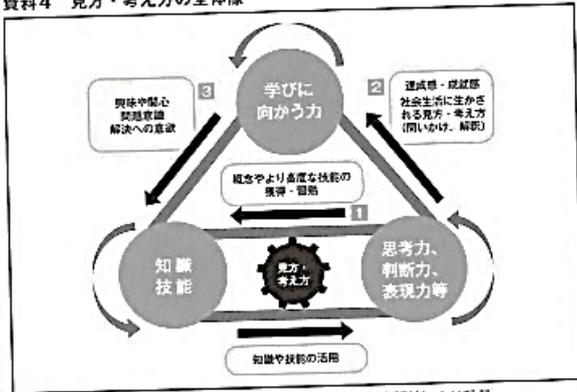
「これからも戦争をしないためには、国民は政治に参加したり、しっかりと意見を示したりして、政治が間違った方向に進まないようにすべきだと思う。いまはちゃんとした憲法があるので、どんな意見を言ってもいいので、戦争になりそうだったら『反対!』と意見を言ったらいいいと思った」

「戦争の悲惨さを後世に伝えていくことが大切だ」というまとめになることが多い本単元で、「自分も国民の一人として政治とどうにかかわるべきなのか」という視点をもっている点特徴的です。そして、このようなまとめをした子どもはBくんだけではありませんでした。

3 価値を見いだせるようになる

資料3は、第5学年の単元「情報を生かす産業」の学習の際にCさんがまとめたワークシートです。

本単元では、宅配便を中心的な教材として扱い、「宅配便の人々はどのように情報を生かすのか」という学習問題のもとに学習していましたが、Cさんは「情報を生かすこと」によって、どのような価値が生まれている



出典：澤井陽介著『図解 授業づくりの設計図』（東洋館出版社）より転載

このように、資料をはじめとして教材そのものに、社会的事象の見方・考え方が働く要素を盛り込んでおくということです。こうした仕掛けは、教材研究の段階で、教材に含まれる「追究の視点」を洗い出しておくことが欠かせません。

資料4は、澤井陽介先生の著書からの転載です。社会的事象の見方・考え方は、「思考力、判断力、表現力等」と「知識及び技能」を駆動させる歯車のような役割を担ってお

↓資料に年表を入れておく。  
 ↓地形の特色に気づかせるために「空間的な視点」に着目させたい。  
 ↓どのような特徴があるのかを読み取れる分布を地図に示しておく。

のか」を具体的に表現しているところが特徴的です。たとえば右側の区画には、「約束とおりの時間に遊ぶことができる」と書かれています。これは「相互関係的な視点」を働かせながら、「情報を活用することによって生じたよさ」に気づいていることがわかります。

また、左側の区画には「効率のよいルートですぐ運べる。新人でも」と書かれています。これは、「時間的な視点」に加え、AIという新しい技術と人手不足という「社会の様子」とを関連づけながら、ビッグデータ活用のメリットを見いだししていることがわかります。

必要なのは、直接的な「指導」ではなく、間接的な「仕掛け」

子ども一人一人が社会的事象の見方・考え方を働かせられるようにするには、それに適した「指導をする」というよりも、そうなるように、「仕掛けをする」というとらえをもつことが重要だと思います。たとえば、次のような仕掛けです。

●歴史単元で「時間的な視点」に着目させたい。

り、その結果として「学びに向かう力」が促進されることがよくわかる図だと思えます。教師の「仕掛け」のもとで、子どもたち一人一人が「社会的事象の見方・考え方」を働かせながら、多面的・多角的に物事を考えられるようになれば、子どもたちの理解はおのずと深くなります。さらに、根拠と信念を胸に身近な社会とのかかわり方を考えられるようになれば、日々をよりよく生きていく確度も上がることでしょう。

こうした子どもたちの成長に「役買っているのが社会科学なのだ」と、私は考えています。

\*

さて、第1章から第4章にかけて、社会科学の学習を通して「興味・関心」を高め、「見方・考え方」を働かせ、既習を活用し、「成長」していく子どもたちの姿について語ってきました。では、そうした姿を実現するためには、どのような授業づくりが必要でしょうか。そこで、次章からは、「教材研究」「問い」「単元」「本時」「資料」「まとめ」の6つの視点から、授業づくりの方策について語っていきます。

その前に一言。

次章より語る授業づくりの方策を参考にさせていただければ、よりいっそう授業をおもしろく思えるようになるだろう反面、基本的に全科担任である小学校教師にとっては、

とても手間暇を要するものでもあります。

とでも手間暇を要するものでもあります。

社会科学をご自身の専門教科と位置づけている方であれば、ぜひ挑戦していただきたいと思いますが、他教科等を専門とされている先生方など向けに、次のダウンロード・コンテンツ（3年・3単元／5年・6単元／6年・6単元）を用意しました。

- 1 単元計画（1時間分の本時案）
- 2 教材構造フレームワーク
- 3 概念化フレームワーク

いずれも、私がこれまでにつくってきた書式と記載例です（次章以降で紹介する内容と対応）。勤務校でも、OJT方式で先生方に利用してもらっていて、若い先生からも「社会科の授業がおもしろくなった」と好評です。

ぜひ次章以降の内容をダウンロード・コンテンツの手引書ととらえ、ご活用いただけますと幸いです（ダウンロード方法は巻末を参照）。